

# 平成30年度総合技術センター 情報システム分野 分野別研修実施報告

常三島技術部門

情報システムグループ\* 分析グループ\*\* 計測制御システムグループ\*\*\*

管理運営グループ\*\*\*\* ものづくりグループ\*\*\*\*\* 技術部門長\*\*\*\*\*

大学院社会産業理工学研究部総合技術センター

運営管理分野\*\*\*\*\*

片岡 由樹 (Yoshiki Kataoka)\*  
齊原 啓夫 (Hiroo Saihara)\*  
宮武 秀考 (Hidetaka Miyatake)\*  
山下 陽子 (Yoko Yamashita)\*\*  
七條 香緒莉 (Kaori Shichijo)\*\*  
酒井 仁美 (Hitomi Sakai)\*\*\*\*  
河村 勝 (Masaru Kawamura)\*\*\*\*\*

木戸 崇博 (Takahiro Kido)\*  
山中 卓也 (Takuya Yamanaka)\*  
横山 智弘 (Tomohiro Yokoyama)\*  
友成 さゆり (Sayuri Tomonari)\*\*  
石井 純也 (Junya Ishii)\*\*  
高木 佳美 (Yoshimi Takagi)\*\*\*\*\*  
玉谷 純二 (Junji Tamatani)\*\*\*\*\*

Keywords : 研修, タッチタイピング

## 1. はじめに

総合技術センター情報システム分野の平成30年度分野別研修として「タイピング技術研修」と題して研修を実施したので報告する。

## 2. 研修概要

### 2.1 目的

タイピング技術の向上によってタイピングに要する時間を短縮し、効率的に仕事をこなすのを目指す。そのための方法としては、タッチタイピングの再確認と練習、速度向上、安定度向上、入力方法（かな入力、親指シフト等）の変更である。

### 2.2 期待される効果

タイピング技術の向上による仕事効率アップと正しい姿勢によるVDT作業で身体的負担の軽減が期待される。

### 2.3 実施担当者と受講者

実施担当者と受講者を総合技術センターの分野で以下に列举する。

実施担当者

片岡 由樹 (情報システム分野)

受講者

山下 陽子 (分析分野)  
友成 さゆり (分析分野)  
河村 勝 (ものづくり分野)  
玉谷 純二 (副センター長)  
七條 香緒莉 (計測制御分野)  
石井 純也 (計測制御分野)  
木戸 崇博 (情報システム分野)  
横山 智弘 (情報システム分野)  
齊原 啓夫 (情報システム分野)  
山中 卓也 (情報システム分野)  
宮武 秀考 (情報システム分野)  
酒井 仁美 (管理運営分野)  
高木 佳美 (管理運営分野)

### 2.4 研修スケジュール

研修の主なスケジュールを記す。

平成30年5月01日 (火)

受講者募集

(申し込み受付と同時にテキスト配布)

平成30年5月24日 (木)

研修説明会 (集合研修, 図1)

平成30年12月31日 (月)

研修終了 (完了報告締切)

## 2. 5 研修形式

分野別研修のテキストを実施担当者が作成し、配布した。集合研修（図1）においては研修受講者が集まり、研修概要説明と質疑応答があった。

受講者はテキストを参照に研修期間終了までに各自のパソコン環境で各自の都合に合わせて実施した。研修の最初と最後にタイピングの能力判定を実施し研修効果を確認した。



図1 集合研修

## 3. 研修テキスト内容

研修テキストは全部で10章から構成され以下のようになっている。

- 1章 はじめに
- 2章 研修の進め方
- 3章 研修コース
- 4章 入力方法について
- 5章 キーボード配列
- 6章 タイピング能力の測定と練習アプリ
- 7章 ローマ字入力強化コース
- 8章 かな入力コース
- 9章 親指シフトコース
- 10章 Dvorakコース

受講者の現状や希望に応じてコースを選択できるように4コースを用意した。各コースに運用環境や上達のためのヒントを掲載している。親指シフトコースでは他のキーボード配列を掲載もして各自の好みに応じてカ

スタマイズしていくように勧めた。一般的なNicolaは親指シフト専用キーボードではない場合は打ちにくいので通常のキーボードでは飛鳥がおすすめである。Dvorakについてはアルファベットのみで入力する場合には効率が良いが日本語の入力となるとメリットが少ないのでDvorak-JP配列によるキー入力を勧めた。

配布資料として研修テキスト以外にパソコン作業のアクションチェックの資料（独立行政法人労働安全衛生総合研究所発行）・ローマ字入力早見表（e-typing発行）を配布した。ある一定期間、各自が継続してタイピングを練習することから、受講者のモチベーション低下が想定されたので、目標時間を決めて練習記録の際に時間を入力して練習時間を累積して記録できるExcelファイルも配布した。ファイルについては各自の判断で使用することとした。

タイピングの能力判定についてはネットで実施することができるタイピング技能検定テストの模擬試験を有効活用させていただいた。

## 4. アンケートの結果

アンケートに回答することで研修終了とした。アンケートはMicrosoft Formsを用いてWeb入力を行った。アンケートを集計した結果を以下に記す。

実施したコースはローマ字入力強化コースが一番多かった。かな入力コースと両方実施した受講者もいた。さらに、かなりの上級者だが、親指シフトコースを選択した受講生もいた。

研修前と研修後でタイピング能力判定は変わったかという問いに対しては、一部の方を除き合格する級が上がったり、級は上がらなかったがスコアは上がったという結果となった。

今回の研修についての受講者からの総合評価は5点満点で3.85であった。研修テキストについては4.38であり、おおむね好評であった。

受講者のコメントによると一番苦戦したのは継続して研修を続けることであり、短期

間でコンパクトに実施する研修とは異なり、精神的、時間的な余裕等様々な制約を受けていたようだ。研修期間として最適な時期は夏休み中という回答が多かった。

受講者のコメントは以下の通りである。

- 少々サボった期間もありますが、楽しく受講できました。今後も継続したいです。
- もともとのタイピングの癖が抜けずに苦労しましたが、今回の研修はとても勉強になりました。  
仕事により練習できない日もあり、自分自身反省しなければいけない点もたくさんありますが、とても楽しく研修することができたと思っています。これからも時間を作り練習を続けていきたいと思えます。
- キーボードとタイピングが好きになりました。
- 忙しさのあまり途中で挫折しました。
- 途中休むと、スコアが下がりますね。記号の位置も忘れてしまいました。しかし、再開すると思いついてきますが、なまった腕はなかなか元にもどらないことを実感しました。
- 継続して実施することが一番難しかった。
- Macでは美佳のタイピングが動かなかったので、インターネットのe-typingを利用しました。指使いは特に外れてなかったように思います。スピードはなかなか上達できず、またミスも毎回少しあり、日々修練が必要と感じました。
- 正しいキーポジションを習得する大変良い機会となりました。思ったほど成績は伸びませんでした。以前よりずいぶんスムーズに入力できるようになったと実感しています。研修期間は終了してしまいますが、練習は続けていこうと思います。受講できて大変良かったです。ありがとうございました。
- 継続ができませんでした。日々の業務におわれ断念です。今回、脱落しましたが、習得する意思があります。自分なりに習得に向けやっつけていこうと思います。
- 今回タイピングマニアとして参加させていただきました。おかげで親指シフトの乗り換え(NICOLA配列-> 飛鳥配列)への乗

り換えに成功いたしました。いまは普段から新しい配列を使っており、前の配列は忘れてしまいましたが、総じてより快適になりました。よい機会をいただきありがとうございました。

- 時間の空いた時に研修を行うので気軽にできてよかったと思う。「A」と「Z」で指が絡まる件はだいぶ改善された。目標の級は合格できなかったが、部分部分は合格点を取ることができたのでこのまま続けたら合格はできそう。配置はすぐに覚えることができたが、押し間違いが多いので点数が伸びなかった。また、タイピングのスピードが最初と変わっていないので、MIKAの文字数は最初と変わらなかったのが残念でした。
- あまり上達ができなかった。タイピングは思っていた以上に難しかった。指もよく痛くなった。
- 自分のレベルに合わせて研修を実施することが出来、出来る範囲でステップアップすることができたことが、良かった。

実施担当者としてはMacへの配慮についてはフォローが不十分であった。また、研修期間中に連絡事項、補足事項、質問に対する回答などの情報以外に、特徴的なキーボード情報やキーボードやタイピングに関するネット情報をメールで受講者に通知した。すべての情報をフォローする場合、情報量が多く、かえって研修の妨げになったかもしれない。

## 5. まとめ

本研修を通じて受講者のタイピングに関する知識量、能力が多少向上することができたと思う。今回の研修期間に限らず各自で自己研鑽すればよりタイピング技術は向上すると思う。